

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
最終更新日		2024年(令和6年)2月13日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>学びの伸びを図る調査の結果、小学校・中学校ともに福山市の平均正答率を上回った。また、長欠未然防止に向けて、現状や対策を話し合うことで今年度の新規長欠児童生徒は減少した。さらに、メディアウィークを設定することで、メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかわる力 社会貢献力 自己形成力</p>	<p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>自ら考え、判断し、行動できる自律した児童・生徒</p>
		<p>中学校区として統一した取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区合同研修における、合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ・DC教育を基に、ICTを活用した授業実践及び協議・交流の取組 ・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 ・合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組 	

III 自校

<p>ミッション</p> <p>夢を持ち その夢を実現することを通して 社会に貢献できる 児童の育成</p>
<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び 豊かな心で たくましく生きる子どもの育成</p>

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体的に学ぶ力	思考力	表現力	他者と関わる力
めざす子ども像	生活体験や既習事項を基に、調べたり考えたりするなど、継続して新たな課題を見つけようとしている。	より良い解決に向け、目的や意図に応じて論理的に考えようとしている。	必要な情報を整理し、論理的に話したり書いたりするなどして、自分の考えを表現しようとしている。	初めて出会う考えにも耳を傾け、目標達成に向けて、共感しながら互いに学び合おうとしている。

<p>現状</p> <p>〈児童生徒〉 ・全国学力・学習状況調査、学びの伸びを把握する調査、標準学力調査では、全国平均を上回った。 ・学校のルールを守る児童が増加し規範意識が高まった。 ・「無言掃除」「地域行事への参加」等、主体的に考え行動できる力を高めていく必要がある。 〈授業〉 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」児童の割合(「全国学力」アンケートが、87.9%(全国78.8%)、「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」児童の割合(「基礎・基本」定着状況調査アンケート)が、77.1%(県65.7%)であり、どちらも平均を上回っている。今後も自分の考えをまとめて書くこと、考えを練り合い深めていくことに継続して取り組んでいく必要がある。</p>
--

研究	<p>テーマ</p> <p>自ら学びに向かい、対話的な学習を通じて深い学びを実現する児童の育成 ～「やってみたい」「考えたい」「伝えたい」の思いをもって学び合う姿を目指して～</p>
	<p>内容等</p> <p>問題解決型の授業研究の実践を年間を通して行う。(プロジェクト活動型)</p>
めざす授業の姿	<p>○児童の問題意識を高める場面設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童のなぜを引き出すような導入の工夫 ・児童の問いや疑問を基にした単元や本時の学習課題の設定 <p>○学びを広げ、深める活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人に考えをもたせ、意見交流する活動の充実 ・教師が児童と児童の意見をつなぐ(ファシリテーターとしての役割を果たす)

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
4	自ら考え学ぶ児童(主体性)の育成	★	継続	「やってみたい・考えたい・伝えたい」と感じる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童の問題意識を高める場面設定を行うなど、学びを広げ、深める授業づくりを進める。 ICT等を活用して、児童が積極的に意見交流を行う授業づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考・判断・表現 国語80% 算数80%以上にする。(単元末テストの平均) ICT等を活用して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができ、友だちと意見を交流し、意見が深まったと感じられる児童90%、教師80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語89.5%【111%】、算数83.0%【103%】 考えが深められた児童90.6%【100%】 また、ICT活用により意見が深まった教師87.5%【125%】 ICTを使って考えを深められるようになってきているが、自分の意見の根拠や論理性が欠けていても気づかない児童がいる。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい相手を意識して表現することができる場の設定をする(意見交流や異学年交流) 友達との話し合い活動では、比較・分類したり総合したりして自分の考えを再度深めたり広げたりさせる。 学習の振り返りの時には、視点をもった振り返りを書かせ学びを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語90.0%【113%】、算数83.4%【104.3%】 ICT活用等により友達と意見交流をすることで、考えが深められた児童90.1%【100%】 教師87.5%【125%】 ◎学習の振り返りでは、視点を明確にして書かせることで、学びを実感し、理解が深まった。異学年交流を行うことで、相手意識をもって伝えたいという意識をもって発表していた。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの目的意識や、相手意識をもって伝えようとする活動や視点をもった振り返りを書かせ学びを実感させる活動を行うことで、意欲が高まりつつある。引き続き、目的を持った意見交流と、学習の理解を深めるための振り返りをこれからも継続していく。
			継続	自分たちで考え、進んで掃除をすることができる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班掃除を、年間を通して実施する。高学年は、手本を見せたりアドバイスをしたりする。リーダーは、下学年のがんばりや成長を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り掃除後もプラス1掃除ができる児童を90%以上にする。(縦割り掃除後の児童アンケート・教師の見取り) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童92.6%【102%】 教師の肯定的評価は100%と高い。【111%】 自分の役割を一生懸命果たしている児童は多い。しかし、「よくできる」という教師評価は低かった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童と掃除の目的を共有し、主体的にプラスワン掃除の内容を選択できるように全校指導をするとともに、各掃除場所での個別指導を行う。プラスワン掃除でどのようによくなったのか肯定的な声かけを行い、意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童90.3%【100%】 教師の肯定的評価は100%とであった。【111%】 ◎2ヶ月に1回掃除の取り組み方について全体で評価と指導をしたり、各掃除場所で担当教員が自ら考えプラスワン掃除に取り組む児童を積極的に評価したりしたことで、児童の掃除への意欲が継続した。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 各掃除場所での個別指導や、縦割り掃除朝会での全体指導で、児童の意識の向上に一定の成果が見られた。引き続き、自分の役割に責任を持って活動できるよう、個別指導と全体指導を続けていく。
			継続	自分で考え、主体的に体力づくりができる児童の	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の体力向上月間を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自己目標に向かって進んで体力づくりに取り組めた」児童90%以上に 	<ul style="list-style-type: none"> 「自己目標に向かって進んで体力づくりに取り組めた」児童 	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上ががんばりカードを活用し、自己目標を明確にした上で、体 	<ul style="list-style-type: none"> 「進んで体力づくりに取り組んだ」とこたえた児童93.8%【104%】 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 3年間継続して取り組んだ柔軟性の向上には一定の成果が見られた。

			育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分ギネス」カードを使って、長座体前屈の自己記録と目標レベルを示し、自ら目標を持って体力向上に努めるよう促す。(年5回計測) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもが自ら考え学ぶ」授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・長座体前屈が県平均を超えた児童80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・84.6%【94%】 ・長座体前屈が県平均を超えた児童63.2%【79%】 		<ul style="list-style-type: none"> ・カづくりに取り組み、努力している姿を肯定的に評価していく。 ・毎日、朝タイムの時間を使って、全校一斉に柔軟運動に取り組む。また、体育の授業の準備体操で柔軟運動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎多くの児童が持久走やなわとびの自己目標に向かって取り組んだ。 □長座体前屈で県平均を超えた児童82%【102.5%】 ◎朝タイムでの柔軟運動が定着しつつある。 				<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の新体力テストで『握力』に課題があることがわかった。次年度は、『握力』の向上につながる全身の筋肉量やバランス能力を高めることに重点を置き、体力向上に取り組んでいく。
2	教職員の元気・笑顔の増進	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・一層の業務改善を行い、授業研究等の時間を確保する。 ・プロジェクト型の授業改善を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもが自ら考え学ぶ」授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりが当てられている教師57.1%【63%】 ・授業研究が授業の改善につながったと感じている教師100%【117%】 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりに当てることができている教師100%【111%】 □授業研究が授業の改善につながったと感じている教師100%【117%】 ◎それぞれが課題を設定し、授業研究に取り組むことで、年間を通して授業改善に取り組むことができた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後にそれぞれの授業づくりの課題を出し合い、みんなで改善案を考える時間を確保する。 ・研究授業で積極的に意見を交流する場にし、グループで設定した授業改善の課題解決の方法を自分の授業に還元する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に教材教具をストックしたり、作成時間短縮ができるようにデータを整理したりするなどの工夫を行い、授業研究等の時間を確保する。 ・プロジェクト型の授業研究を継続していきたい。 	4	4	4
4	地域を笑顔にする学校		新規	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会を中心に、あいさつ運動を年間3回以上実施する。 ・地域の人やボランティアの人と連携をしながら学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・児童・登下校ボランティアのアンケートで「地域の人やボランティアの人にあいさつができる」児童を70%以上にする。 ・各学年、年に1回以上地域の方と連携しながら学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの自己評価は、児童93.3%【133%】保護者94.2%【134%】登下校ボランティア100%【143%】 地域の方からは、低学年はできているが、高学年は十分でないという意見があった。 ・地域やボランティアの方と連携し、これまでに読み聞かせ5回、クラブ活動3回、2年の生活科で1回協力いただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの自己評価は、児童92.5%【132%】保護者83.7%【120%】登下校ボランティア67%【96%】 ◎地域の方からは、あいさつはよくするようになったが、しない児童が固定化しているとの意見があった。 □全学年、読み聞かせやクラブ活動、生活科や総合的な学習の時間においてゲストティーチャーとして指導していただいた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の声を積極的に児童に伝え、あいさつをする良さを感じさせるようにする。 ・あいさつ運動を、高学年が主体になり、企画運営する。 ・各学年のカリキュラムを見直し、地域との連携ができる単元を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつを意識して頑張る児童は増えてきているが、継続できる児童は少ない。児童が自分事として考えていけるように、児童会や各委員会による主体的な取り組みを進めていく。 ・生活科や総合的な学習の時間の単元構成を見直している。地域を題材にした学習では、計画的に地域連携を進めていく。 	3	3	3

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。